

ADVANレーシングタイヤインフォメーション

2009年 SUPER GTシリーズ第8戦

2009.10.18

SUPER GT in KYUSHU 300km



横浜ゴム(株)が「ADVAN」ブランドで、挑戦を重ねるカテゴリーのひとつ、SUPER GTシリーズ。2009年も全9戦で争われ、海外のサーキットも舞台とする日本の最高峰、かつ激しいバトルが繰り広げられるレースである。ADVANはGT500クラスに出場する、KONDO RACINGとのパートナーシップを継続。3年目のコンビとなるジョアオ・パオロ・デ・オリベイラと荒聖治が、HIS ADVAN KONDO GT-Rをドライブし、開幕戦を制覇。今季2勝目の獲得目指し、スタッフ丸で全力を尽くす。

富士スピードウェイでのシリーズ第7戦は、泣くに泣かれぬ結果となってしまった。予選5番手から決勝に挑んだHIS ADVAN KONDO GT-Rは、デ・オリベイラの鋭いダッシュによってスタートでひとつ順位を上げ、さらに一時は2番手を走行。しかも、クラス最長となる33周まで走り続けた。荒に代わってからも4番手を走り、表彰台獲得の期待が高まった矢先に、前走車から外れたドアがボンネットを直撃！ エンジンがストップしてしまう。荒の機転により、キルスイッチを修復してレース続行こそなったものの、13位での完走を果たすに留まった。これによって3戦連続で入賞ならず、トップとの差は26ポイント差となり、チャンピオン獲得はかなり難しくなってしまう。

そこでシリーズ第8戦に挑むにあたり、ターゲットをひとまず今季2勝目の獲得に絞ることに。大量得点を得られれば、再び可能性が広がるからだ。今回の舞台、オートポリスに持ち込まれるタイヤは、構造がモディファイされているのが最大の特徴。もちろん、これまでのタイヤも性能、ライフの両立という意味において非常に高いパフォーマンスを示してきたこともあり、極端に改められているわけではないものの、コーナリング時のピークを高め、かつ広げるためリスク承知の上での導入となった。

一方、GT300クラスは未曾有の大混戦状態となっている。なんとランキングトップに3チームが並ぶことになったのだ。そのうち2チームはADVANユーザー。アップル・K-one・紫電とウェッズスポーツIS350が過酷な戦いに生き残って5位、4位でフィニッシュして、待望のポジションまで上り詰め、しかもエスロードMOLA Zが8ポイント差、M7 MUTIARA MOTORS雨宮SGC7がそこから3ポイント差、さらに1ポイント差でダイシンアドバンFerrariとJIMGAINER ADVAN F430が続いている。ここに挙げたチームすべて、まだチャンピオン獲得の権利を残しているのは言うまでもない。

前回のレースではtriple a ガイヤルド RG-3/88号車が大躍進を果たし、初のポールポジションを獲得。しかし、スタート直後の混乱によって順位を落とし、代わって主役の座を射止めたのはダイシンアドバンFerrariだった。ゴール間際にはJIMGAINER ADVAN F430と死闘を繰り広げ、僅差ながらも逃げ切って待望の初勝利を獲得した。また3位にもtriple a ムルシェ RG-1がつけ、第4戦・セパン以来となるADVANユーザーの表彰台独占が成し遂げられた。

最終戦までタイトル争いがもつれ込むのは必至ながら、ADVANユーザーを最大限に援護すべく、オートポリスの荒れ気味で、かつμの低い路面に適應する、耐摩耗性に優れたタイヤを投入することが決定。また、このところタイヤ交換を中心としたピット戦略も、勝敗を大きく左右している



こともあり、アドバイスやサポートはスタッフ一同、惜しまぬ所存だ。間違いなくいくつかのチームは今回で候補からふり落とされてしまうだろうが、正念場となるツインリンクもてぎでの最終戦で笑うのは、絞られたADVANユーザーの中でも、極めつけのチームとなるような展開を期待したい。

2009年 SUPER GTシリーズ第8戦用ADVANタイヤラインアップ

		GT500	GT300
ドライ用スリック	構造	1種類	1種類
	コンパウンド	2種類 (S, MS)	2種類 (S, MS)
	サイズ	Fr330/710R18, Rr330/710R17	280/710R18, 280/680R18, 280/650R18, 250/650R18
ウェット用レイン	構造	1種類	1種類
	コンパウンド	2種類 (S, MS)	2種類 (S, MS)
	サイズ	Fr330/710R18, Rr330/710R17	280/710R18, 280/680R18, 280/650R18, 250/650R18

WTCC岡山ラウンドに、今年も日本人ドライバーが参戦! ADVAN期待の荒聖治と谷口信輝が意気込みを語る

WTCCとFIA世界ツーリングカー選手権が、日本でも開催されるようになって2年目。世界一過激で、刺激に満ちあふれた市販車によるバトルが、今年も10月31～11月1日に岡山国際サーキットで繰り広げられることとなりました。ADVANがタイヤのオフィシャルサプライヤーでもあるシリーズに、再び日本人ドライバーがスポットで参戦することが決定。

荒聖治選手と谷口信輝選手は、ともにADVANのエースというべき存在。豊富な経験と、どんな強豪と対峙しようと一歩も引かぬ強い精神力の持ち主だけに、この大一番でも活躍が大いに期待できそうです。



©GTA

荒 聖治

1974年5月5日生まれ、千葉県出身。カートレースがルーツながら、四輪デビューは94年のゴルフIIクラス。チャンピオンを獲得した後、渡米して武者修行、帰国後はF4を経て98年からF3に参戦する。2000年よりGTに、01年にはフォーミュラ・ニッポンにも進出した。その一方で、海外レース経験も豊富で、01年からはル・マン24時間に出場。04年には日本人では2人目となる総合優勝を飾っている。

— ふたりとも乗るのはBMWですが？

荒 「BMWはFRですら助かっている部分はありますね。自分のスキルを生かせるだろうし。タイヤもスベックこそ知らないですが、ADVANのDNAが入っているのは間違いないので、その点ではちょっと有利かな」

谷口 「僕もそう思いますね。FRの方が仕事しやすいでしょうし、短い時間の中で四苦八苦しつつも、少しは何かかなるかな、と」

— ズバリWTCCの魅力とは？

荒 「接近戦ができることでしょね。周回は少ないからずっと全開。こういう雰囲気は耐久じゃ味わえないので、楽しみです。ドキドキしています。久々のスプリントといっても、決められたレース距離で最大限のパフォーマンスを発揮する、っていうのは日頃のレースと、そう代わらないと思っているんですけどね」

谷口 「その接近戦が日本のレースではあり得ないじゃないですか。接触してもペナルティとれないのが、あとで喧嘩にならないのか、ってDVDを見ているといつも感じるんですよ。走る前に「ガンガン行っていきたいの？」って確認はしますが、そういうのにひるんでいると、その時点で負けですからね」

— まずは、WTCC岡山ラウンドに挑むにあたり、おふたりに決意表明をお願いします。

荒 「WTCCに参戦できるようになり、エンドレスとヨコハマに感謝するとともに、ドライバーとしては久々のスプリントで、僕にとってはF3以来なんでも非常に楽しみです。スポット参戦ということもあって時間のない中、クルマとタイヤのパフォーマンスを発揮して、いいレースにしたいです。もちろん、できるだけ上位でゴールしたいと思っています」

谷口 「今回、このWTCCに出させていただいたヨコハマに感謝しています。事前の練習もなく、いきなりレースになってしまうけど、世界最高峰のレースは自分を試せる絶好の機会。日本人代表として、岡山ではしっかり生き残って、いいリザルトを残したいと思っています」

荒 「インターナショナルにレースすることにこだわって、今までル・マンを中心に戦ってきたわけですが、WTCCが日本でやられるのが決まった昨年からは出てみたいと思っていたので、こういうチャンスが訪れて、すごく嬉しいです」

谷口 「実は昨年お話をあったんですが、準備不足で見合わせているんです。でも、その時ヨコハマと「来年は……」っていう軽い口約束をしていたんで、実現して「本当に！」って気分です。昨年は兄貴分の織戸（学）選手が、とてもいじめられている感じがあったんですが（笑）、僕もその中に入っていけるのが楽しみです」

荒 「僕は確認とってあるんですよ。『完全に壊しちゃダメだけど、全力尽くせる環境は整えてやる』って。ある程度やんちゃなレースもさせてもらえそうです」

— 具体的な目標は、どのあたりに定めていますか？

谷口 「インディペンデントクラスで一番獲りたいのと、理想は昨年トム・コロネルがインディペンデントクラスでありながら、レース2で総合優勝飾っているじゃないですか。リバーズグリッドで前から出て、雨も味方してくれたみたい。あれですね。今年も降ってくれば、岡山って雨が降ると通常のラインがノーグリップなんで、そこに少しは地の利があるかな。まあ、連中もすぐ見つけてくるんでしょうけど、イレギュラーな試合なら、イレギュラーな順位もあるでしょうからね」

荒 「僕、フォーミュラ・ニッポンでリバーズグリッドを生かして、08年のもてぎで勝ったことがあるんです。その時みたいに表彰台に立てればいいなあ。まあ、結果うんぬんより、世界選手権で自分がどこまで通用するのか、非常に興味深いですね」

谷口 「あと僕と荒選手との競争にも注目して欲しいですね。05年にS耐で対決して以来、なかなか同じクラスで勝負することができなかったんで。ともかく日本人同士、上位で争いたいですね」

荒 「それはありますね。そのためにもお互いスタート直後の1コーナー、それとバックストレートエンドのヘアピンまで生き残って、いいポジションでいいたい」

谷口 「1周目は見えないところから弾撃ってきたり、ひとつのコーナーになだれ込んでいったりする状況なんて、実際にやってみないと分からないし、意識して避けられるもんじゃない。確かに最初の1周で、ほとんどが決まるでしょうね」

— 荒選手、普段はS-GTでチームメイトの（ジョアオ・パオロ）デオリベイラ選手も出るようですが、意識はしていますか？

荒 「JPLはガソリンエンジンのセアトと違うクルマですけど、普段は同じクルマに乗っていますから、見ている人には楽しいでしょうね。お互い、「お前には負けない」とか「オレもFRに乗らせろ」とか子供みたいな会話していますよ。まあ、彼ともいいレースをして、一緒に上位にいけたらいいですね」

— レースまでの日々が待ち遠しいですね！

谷口 「モヤモヤしているのが、これから約1か月も続くと思うとね」

荒 「僕もそう。ドイツに行ってシート合わせぐらいしてこうかと思ったけど、『クルマはないぞ』って言われて（笑）。早く走りたいですよ」

谷口 「正直言って事前に練習もできず、岡山でいきなりぶっつけ本番なんで、去年のドライバーより不利。いきなり醜態をさらすかも（笑）。でも、個人的にはゲンのいいサーキットなんで、なんでだか分からないけど。望みは高く持とうと思っています」



©GTA

谷口 信輝

1971年5月18日生まれ、広島県出身。走り屋からプロドライバーとなった、異色の経歴の持ち主。D1グランプリで頭角を現し、01年のチャンピオンに。その巧みなコントロール能力が評価され、02年からSUPER GTにも参戦。レースではADVAN一筋の活躍を重ねる。併せて参戦するスーパー耐久では、01年にGN+クラス、05年と08年にST-1クラスでチャンピオン獲得の経験あり。05年には全勝も！

